

「#君に届け!!～最後の中学校生活～」

横浜清風高等学校インターアクト部から学んだこと

「#君に届け!!」最後の中学校生活
横浜清風高等学校インターアクト部

7月18日4校時に、保土ヶ谷警察署生活安全課防犯少年係香川係長とスクールサポーターの田淵様、そして横浜清風高等学校インターアクト部の生徒、顧問の先生のご協力により、5年目の開催となりました。

数年前、法体系についての講演内容から始まったこの企画、今年度は2度と返ってこない中学3年の夏を充実したものにしてほしいと熱のこもった内容にと様変わりしていました。

今回は、3学年主任の平島教諭の翌日発行した学年通信の文章を紹介します。



きのうは、横浜清風高校のインターアクトクラブの皆さんが私たちシーサー学年のために橘中へ来てくれました。「非行防止教室」ということでしたが、3年生よりもちょっと年上の先輩たちがしてくれた話は、とてもわかりやすく、興味深いものでした。

インターアクト…、私も清風高校のホームページを見るまではあまり知らない言葉でしたが、世の中にあるさまざまな課題に目を向け、それを解決するために話し合ったり実際に活動したりしていく…防災や防犯、国際的な文化交流まで、幅広い活動をしているそうです。

今回の講演会に向けて、事前に打ち合わせまで来てくれました。そのときに、中学3年生のころを思い出しながら、あのときの自分に言ってあげたいと思うことを考えてきてほしい。とお願いしたところ、何度も話し合っ、今回の発表を考えてきてくれたそうです。

SNSのトラブルは、なるほど、と思うことがたくさんありました。そして、ストレスのこと、睡眠のこと、食生活の話…ポジティブシンキング。あらためて大事だなあと思うことがたくさんありました。中学生のころは気をつかわずに発言してしまっていたけれど、高校生になって、相手に気をつけて発言できるようになった…だから中学3年生のみんなには

「どんなに親しい相手でも、相手を気づかうことが大切」

と伝えてくれました。SNSなど、手軽に通信できるものもあるけれど、そういったものは事務連絡に使い、気持ちを伝えるには、やっぱり直接会ってコミュニケーションをとったほうがいいということですよね。橘中の卒業生もいて、身近な先輩から中学校最後の夏に向けてエールをいただくことができました。

1年後のシーサーのみんなはどうなっているかな…先輩たちを見ながらそんなことを考えました。

1度しかない「中3の夏」、夏のおわりに「よし！自分がんばった！！」と思う夏にしよう。